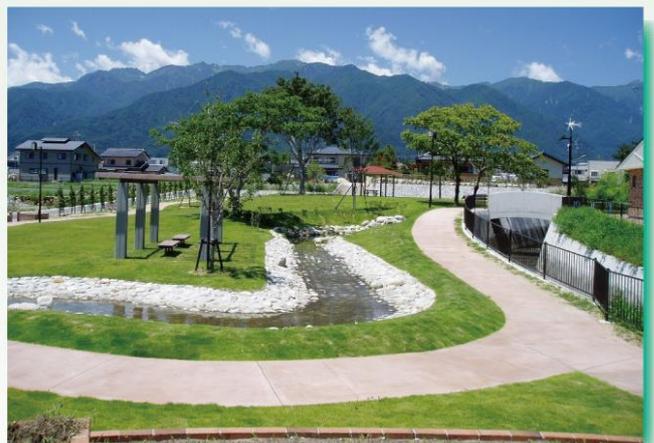


# 第4章

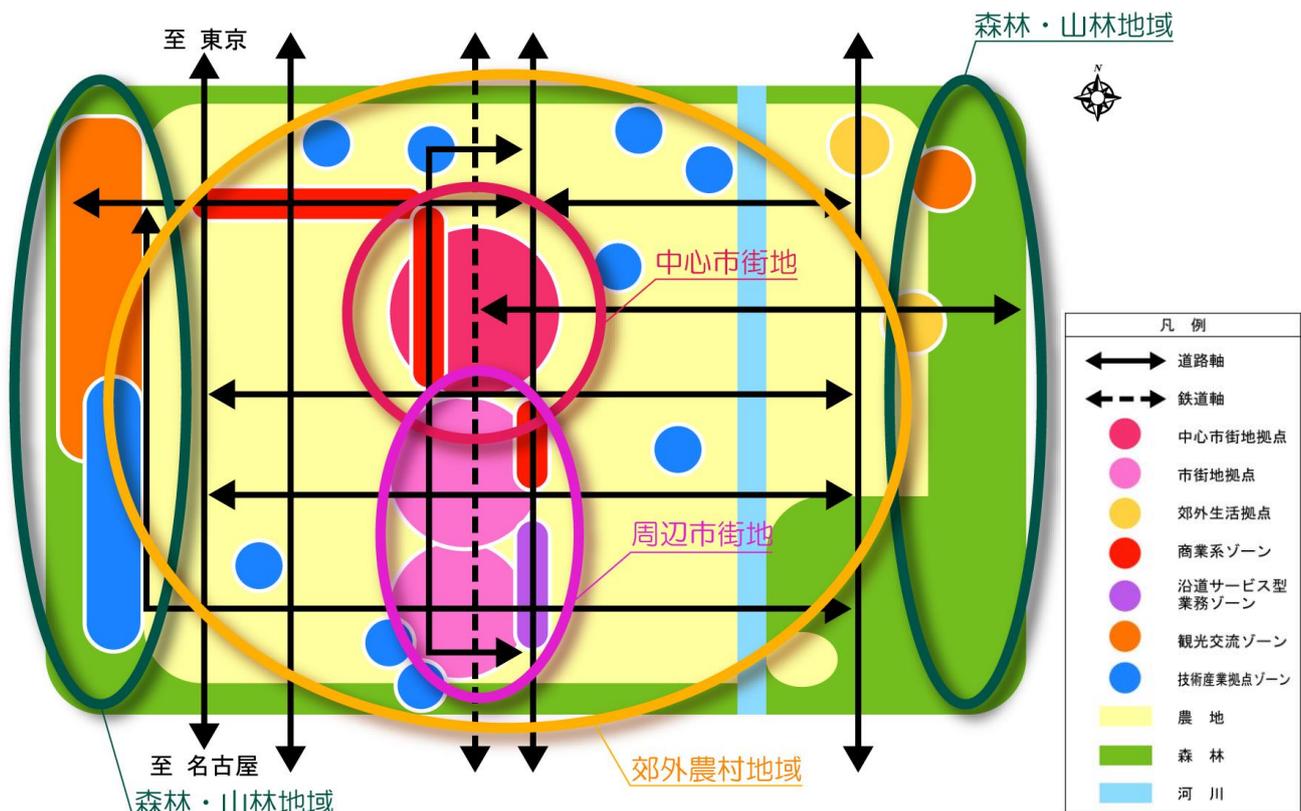
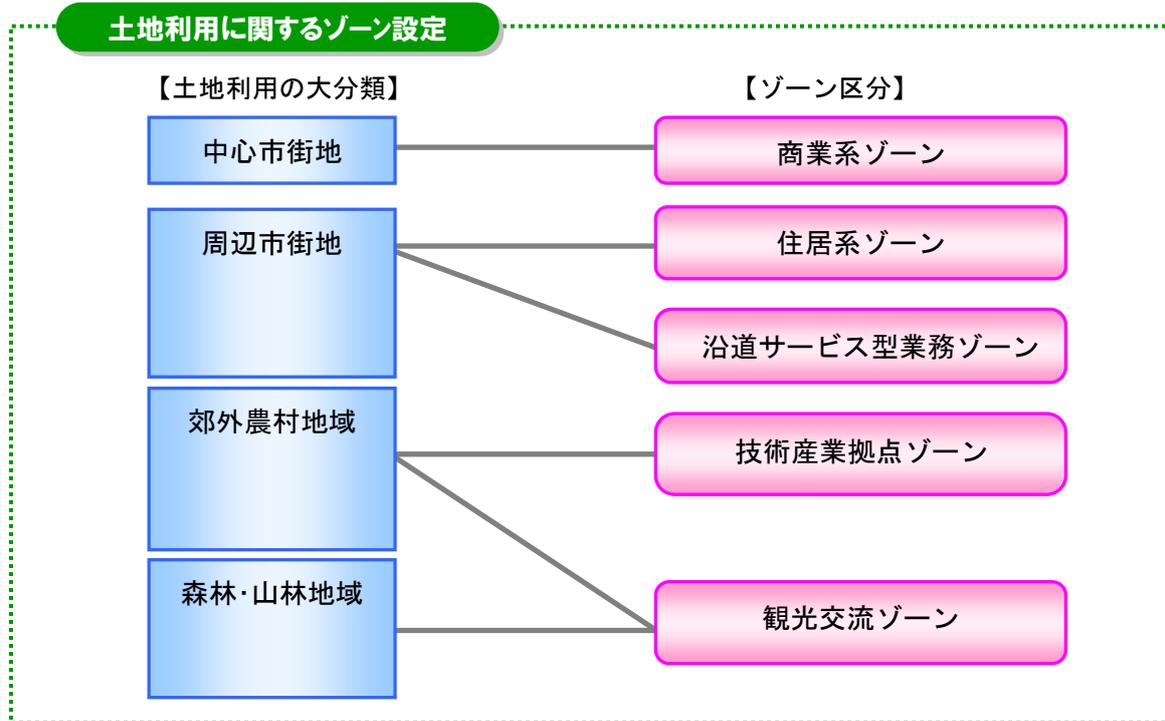
## 分野別整備構想



## 第1章 分野別整備構想

### 1. 土地利用の方針

本市の恵まれた自然環境を保全するとともに、安全安心した都市活動及び経済活動が営めるよう適正な土地利用を誘導します。



<都市構造概念図>

### (1) 住居系ゾーン

市域に広く拡散する宅地化を抑制し、用途地域及びその周辺の集積度の高い居住地を住居系ゾーンと位置付けます。

### (2) 商業系ゾーン

既存の商店街や郊外に出店する大型店など様々な商業系施設が立地していますが、市民の生活や経済を支える基盤として、また、賑わいを創出する場として計画的な土地利用を進めます。

#### 駒ヶ根駅周辺

駒ヶ根駅西側の商業系用途地域を商業系ゾーンと位置付け、駒ヶ根駅の交通結節性強化を図るとともに、官民連携による商業施設の集積など、商業機能、都市機能の強化を目指します。

#### 幹線道路沿線

国道153号伊南バイパス及び(主)駒ヶ根駒ヶ岳公園線沿道地域の一部を商業系ゾーンと位置づけ、幹線道路沿線の適正な土地利用を図り、既存商業施設や沿道サービス型施設が集積した賑わいづくりを進めます。

### (3) 沿道サービス型業務ゾーン

国道153号伊南バイパスの南側沿道地域は、既存商業地域や農地と調和を図りつつ、沿道サービス型業務※施設の誘導を図ります。

※沿道サービス型業務：流通・情報通信産業やサービス業など、沿道の立地条件を生かした業務

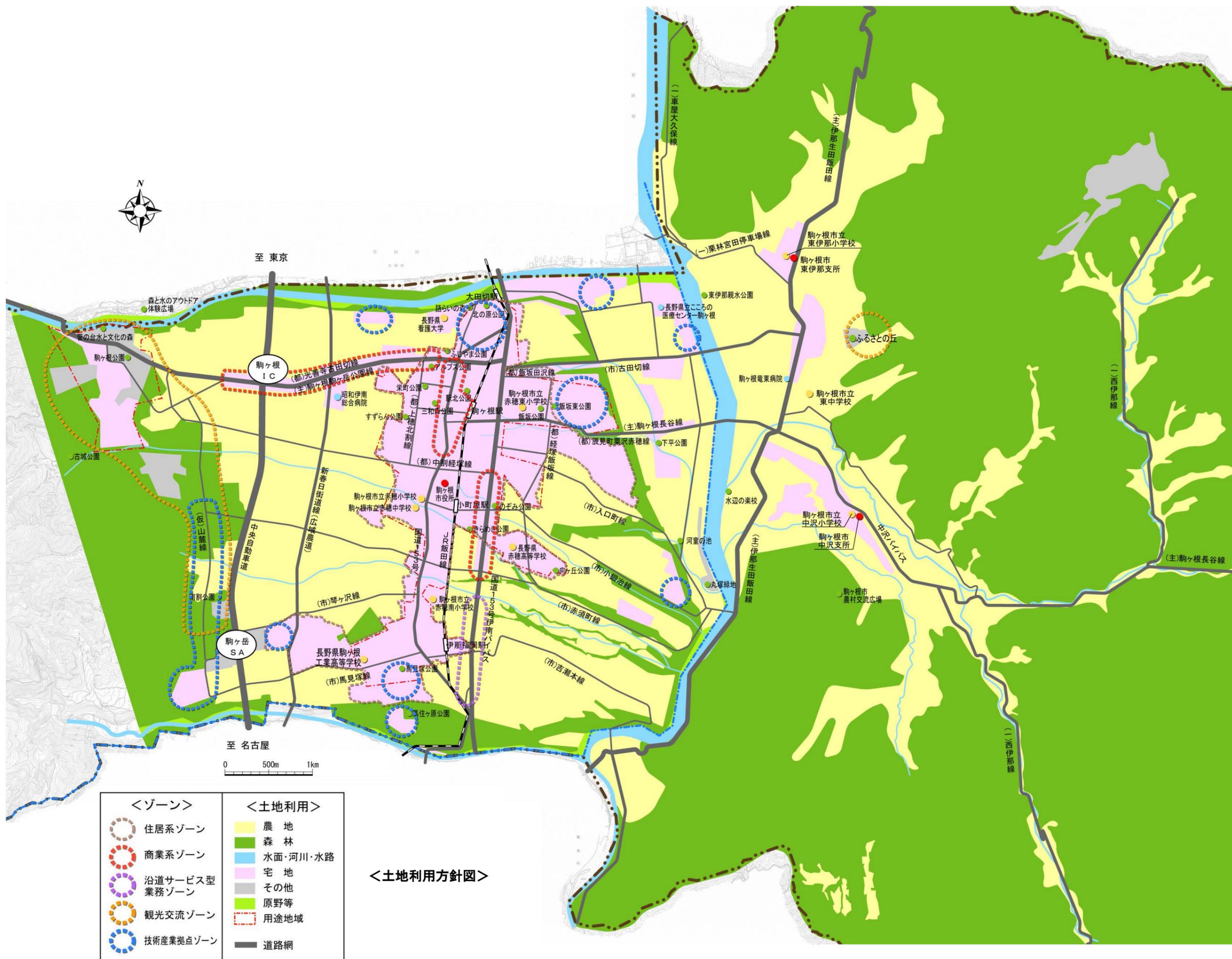
### (4) 技術産業拠点ゾーン

自然・生活環境を維持・保全すべき郊外農村地域内において、既存の工業団地や大規模な工場の立地する地域及び将来的には期待される食品産業・情報技術産業などの進出エリアを技術産業拠点ゾーンと位置付け、周辺環境との緩衝に配慮しつつ、生産環境にふさわしい拠点ゾーンとなるよう整備を進めます。

### (5) 観光交流ゾーン

住居系ゾーン周辺の豊かな自然環境・眺望景観などに恵まれている森林・山林地域から南アルプス山麓一帯に観光交流ゾーンを形成し、拠点として位置付けられている観光拠点、国際観光拠点、憩い・健康拠点を自然環境の維持・保全に配慮し整備します。

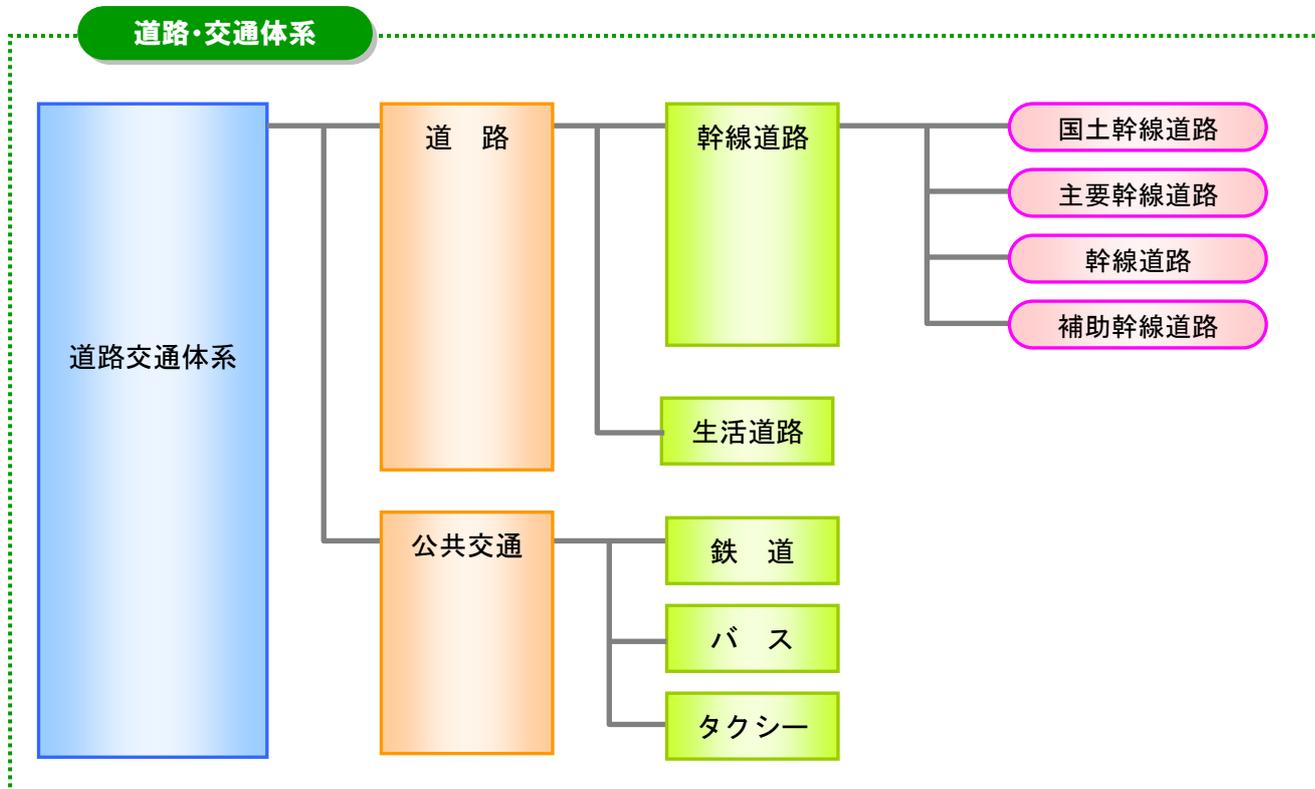






## 2. 道路・交通体系

都市整備に関わる最も大きな要素である道路・交通体系の方針を設定します。整備方針については、次の体系図に示すとおり、道路、公共交通の分類で設定します。



### 2-1. 道路の方針

#### (1) 幹線道路の位置付け

##### a 国土幹線道路

国土幹線として位置付けられるのは中央自動車道で、本市には、駒ヶ根インターチェンジと駒ヶ岳サービスエリアの二つの施設があります。

高速交通網として広域的な交通の処理を分担するとともに、都市防災上の重要な役割も分担します。さらにリニア中央新幹線開通後は、飯田市に設置予定の新駅への高速アクセス機能も分担することになり、多様な機能を担う道路です。

##### b 主要幹線道路

広域幹線とは、いくつもの都市を連結する機能の道路で、(都)伊南バイパス、(主)伊那生田飯田線、(主)駒ヶ根駒ヶ岳公園線が広域幹線として位置付けられます。

国道153号および(都)伊南バイパスは、伊那谷を形成する各都市間を連結する国道で、本市においては、沿道土地利用を誘導する機能も分担しています。多様な機能を分担する幹線道路としての機能強化が望まれます。さらに(主)駒ヶ根駒ヶ岳公園線は、市街地の北部を東西に横断し、市街地と駒ヶ根インターチェンジ、駒ヶ根高原を連結する重要な幹線として機能しています。

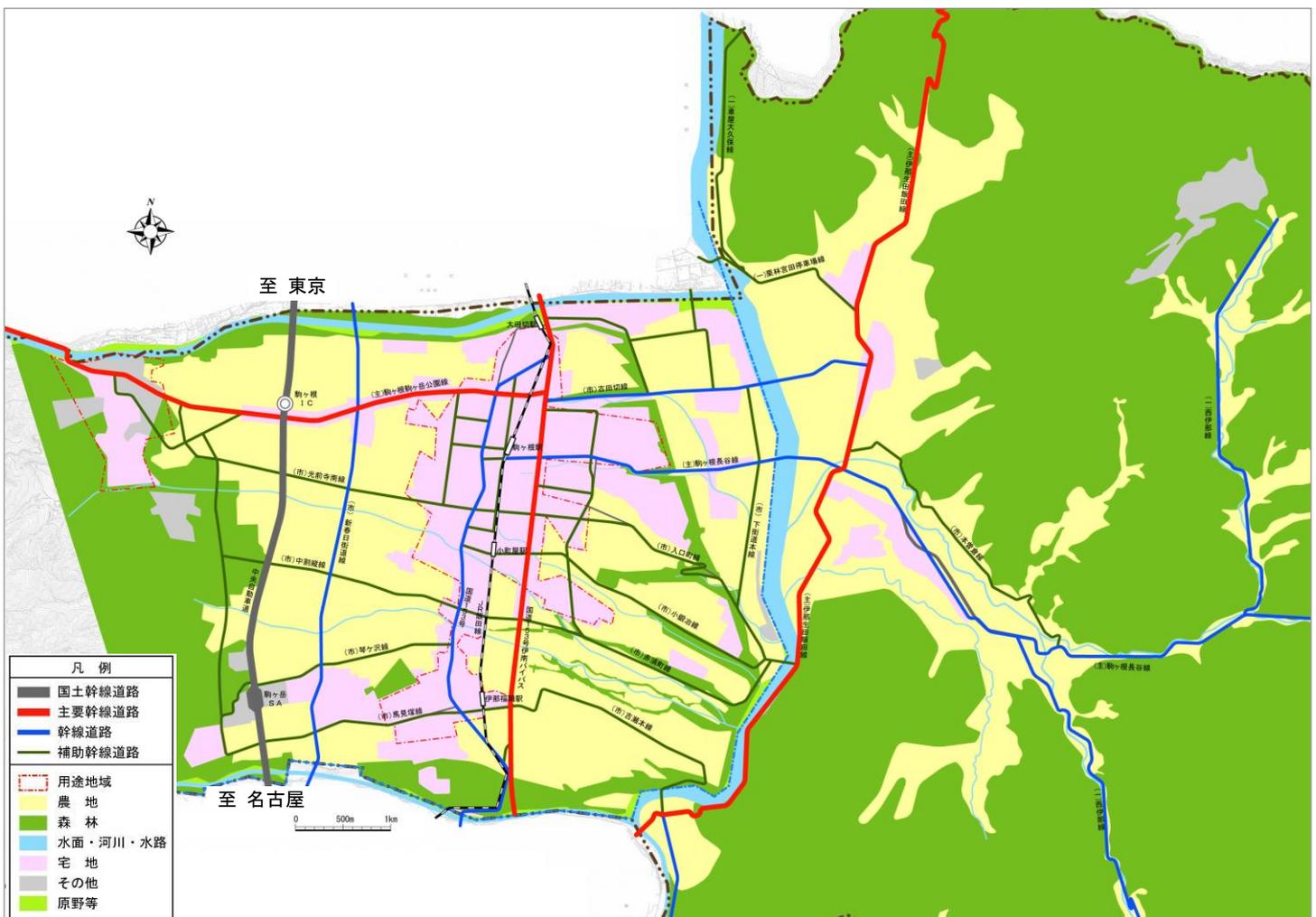
c 幹線道路

都市間幹線は、本市と周辺都市を結節する幹線道路で、(主)駒ヶ根長谷線、(市)新春日街道、(市)古田切線、(市)吉瀬本線が幹線に位置付けられます。また併せて市内の交流を支援する役割も担っています。

これらの幹線は、市内における機能強化を図るとともに、特に山間部を走る(主)駒ヶ根長谷線、(主)伊那生田飯田線は、それを代替える道路がないことから、特に安全性、信頼性確保に向けた機能強化に努めます。

d 補助幹線道路

補助幹線は、市内の集落や市街地や主要都市施設を連結する道路で、(一)西伊那線、(市)馬見塚線などが位置付けられます。(一)西伊那線は、竜東地域の山間部を南北に縦貫する道路として、安全性、信頼性確保に向けた機能強化に努めます。(市)馬見塚線は、市内南部を東西に結ぶ幹線道路としての機能強化を図ります。



<幹線道路網図>

## (2) 幹線道路の方針

交通実態、都市交通の課題や将来の都市構造・土地利用計画などから、幹線道路の整備方針を設定します。

### ① 東西交通の確保

東西交通の整備は遅れており、南北交通も含めた円滑な交通流を確保します。近年の東西方向への宅地化、市街化に対し地域住民の利便性向上のために東西交通の確保を図ります。

### ② 南北交通の補完

広域交通網における南北交通は確保されていますが、市街地の南北の地域間交通網を確保し環状網を形成し、市街地の交通の円滑化を図ります。

### ③ 竜東、竜西地域の連携

天竜川により分断され、4箇所橋により結ばれている竜東、竜西地域は、これらの橋梁を活かした地域の連携を図ります。また、地域間交通の確保のため、竜西、竜東の各地区別の交流を支援する交通ネットワークの確保を図ります。

### ④ 主要施設・各拠点へのアクセス向上

用途地域、中心市街地内、バイパス周辺や幹線道路周辺に位置している市役所などの公共施設、大規模商業施設、昭和伊南総合病院などの主要施設や各拠点への円滑なアクセスを図ります。

### ⑤ 観光資源の連携

菅の台および周辺エリアは、観光・温泉・スキー場・別荘・宿泊などの観光施設、また福岡地籍には、公園・工場や中央自動車道駒ヶ岳サービスエリア（設置検討）等が位置しており、これら施設の連携を図ります。

### ⑥ 防災機能の向上

緊急輸送路は、自然災害への備えとして重要であり、適正な網間隔となるよう緊急輸送路の確保を図ります。

### ⑦ 開発予定、商工業振興の支援のための交通網確保

開発計画を支援する道路や、地域・中心市街地の活性化のため、技術系産業拠点を結ぶ道路の機能強化を図り、人・物の流れの円滑化を図ります。

### ⑧ 公共交通網の支援

交通弱者支援や地球温暖化対策、低炭素都市づくりのため、安全・安心して公共交通を運行できるよう道路整備及び改善を進めます。

### ⑨ 都市計画道路の補完

都市計画道路の機能を補完し、市内に分散している宅地を結ぶ生活道路の整備、改善を図ります。

(3) 計画的・効率的な道路整備の推進

平成23年度に「駒ヶ根市道路整備プログラム」を策定し、本市に必要な道路網体系を構築するとともに道路の整備プログラムを作成しました。

今後、道路整備プログラムに基づいて計画的、効率的な道路整備を進めます。



凡 例	
<span style="color: red;">—</span>	短期着手予定路線
<span style="color: green;">—</span>	中期着手予定路線
<span style="color: blue;">—</span>	長期着手予定路線
<span style="color: grey;">—</span>	国土幹線道路
<span style="color: grey;">—</span>	主要幹線道路
<span style="color: grey;">—</span>	幹線道路
<span style="color: grey;">—</span>	補助幹線道路

<道路整備の優先順位>

(4) 生活道路の方針

生活道路は、特に小学校の通学路、病院・福祉施設への幹線道路からのアクセス路等を中心に、必要に応じた自動車の通行規制や歩行者の安全性を確保するためのグリーンベルトの整備等、既存の道路空間の有効活用を図ります。



<主要生活道路（歩車共存道路）の歩行スペース確保例>



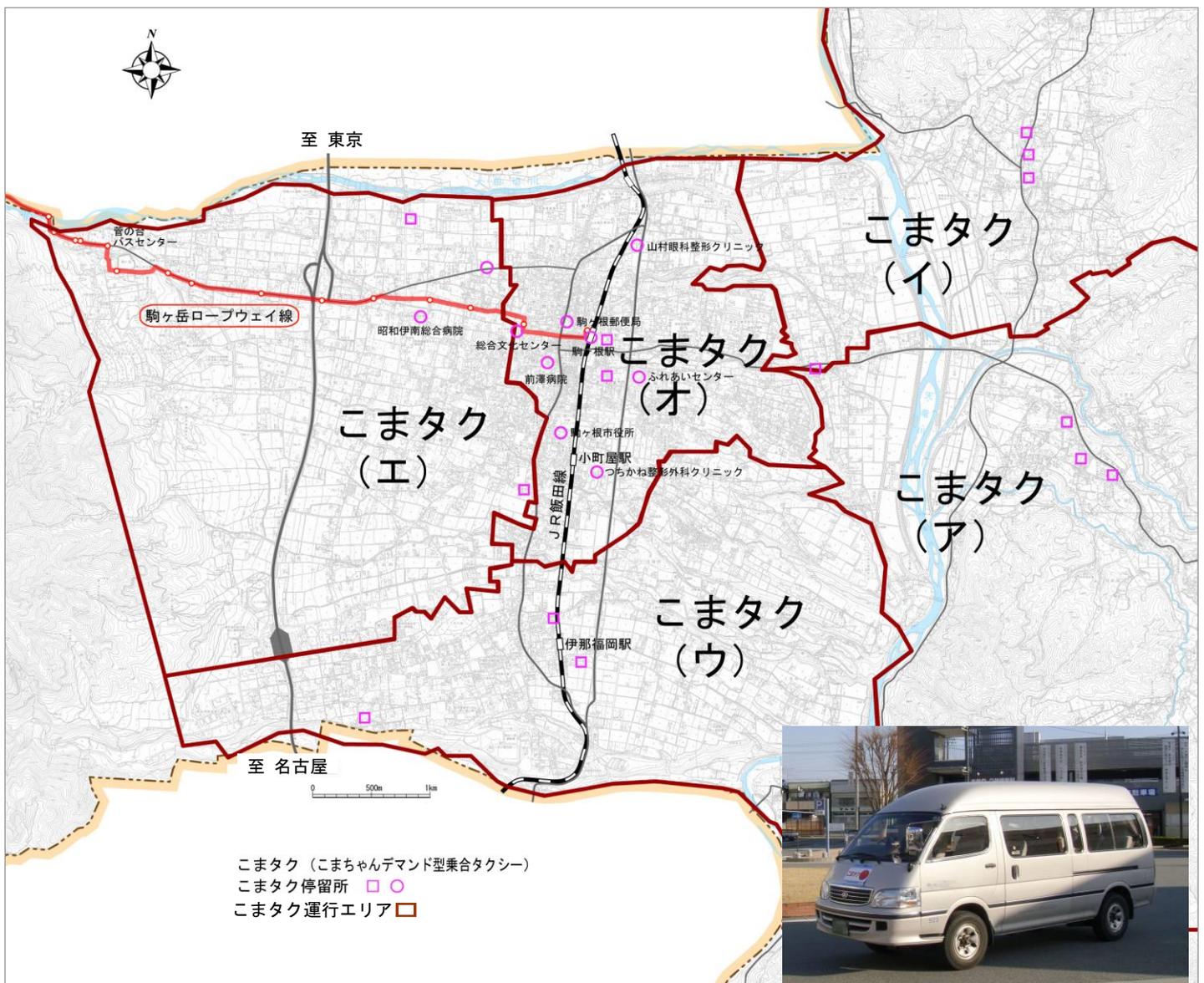
<生活道路の状況>

## 2-2. 公共交通の方針

本市の公共交通は、鉄道ではJ R飯田線、バス路線では駒ヶ岳ロープウェイ線があります。これまで市民の移動手段としてコミュニティバス(こまちゃんバス)を運行していましたが、マイカーの利用が市民の移動手段として広く普及するとともに、バス交通が市民の利用ニーズと合致せず、コミュニティバスの運行を大幅に見直しています。

J R飯田線の利活用、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道などの高速交通網との連携を踏まえるとともに高齢者をはじめとする交通弱者の移動手段を確保・維持するために、タクシーの活用やデマンド交通など福祉面からも研究するとともに、交通弱者のみならずマイカーを利用する市民を広く対象としたモビリティ・マネジメントに取り組みながら、公共交通の必要性を市民と共有しながら、本市の特性及び利用ニーズに合わせた公共交通を構築します。

あわせて、駒ヶ根高原をはじめとする豊かな自然などを有する本市の環境への配慮、また点炭素社会への貢献に資する移動手段としても検討します。



<こまちゃんデマンド型乗合タクシーの運行エリア>

## 2-3. 駅前広場の方針

### (1) 駒ヶ根駅前広場

JR 駒ヶ根駅の駅前広場は、本市の顔であり、重要な交通結節点であると共に集約型都市構造の構築に向けて位置付けする「中心市街地拠点」内の骨格的な施設です。

しかし各種バスの乗り入れ、公共交通の再構築等により、現在の駅前広場の構造では交通結節点機能が不足しています。

このため交通結節点機能を見直し、さらに中心市街地拠点としての機能を加えた駅前広場を再構築します。

### (2) 小町屋駅、伊那福岡駅の駅前広場

小町屋駅、伊那福岡駅は、「市街地拠点」の骨格的な施設と位置づけ、通勤・通学など日常生活の利用を中心とした駅前広場として活用します。

## 2-4. 駐車の方針

### (1) 中心市街地の駐車場

中心市街地における駐車場は、JR 駒ヶ根駅前の立体駐車場を中心として、周辺の商店街、民間駐車場と連携した有効活用を図ります。

また、「中心市街地拠点」における都市機能の集約・誘導を進める中で、駐車場の機能集約（パーク＆ライド、買い物、観光など目的の駐車場の集約）を図るなど駐車場のあり方を踏まえ、必要に応じて新たな駐車場の整備を図ります。

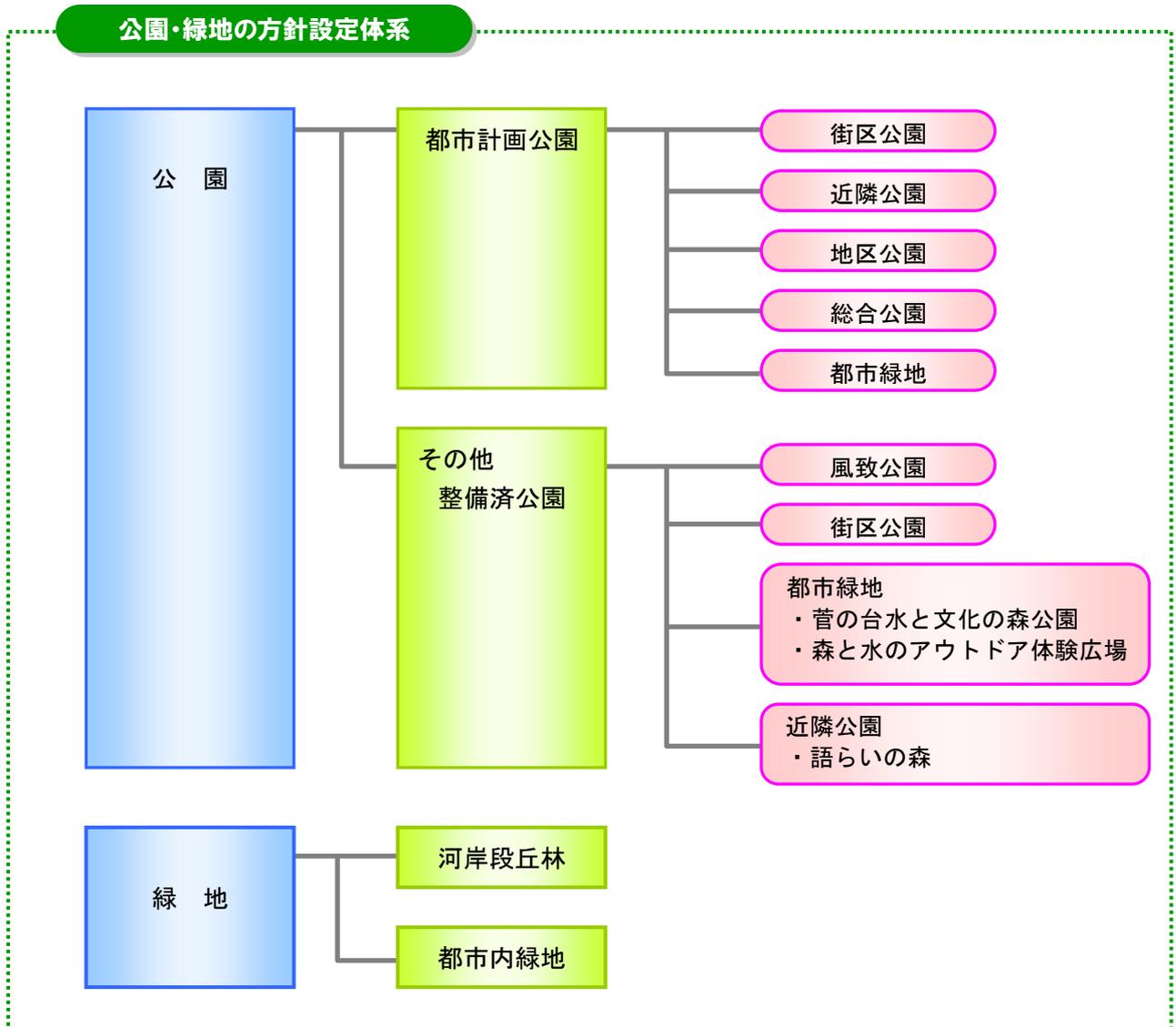
### (2) 観光来訪者のための駐車場

駒ヶ根高原など市内の観光地及び観光施設の駐車場については、観光需要に応じた駐車場を確保するため、既存駐車場施設と連携・誘導した効率的運用に努め、必要に応じて新たな駐車場を確保します。

中心市街地の駐車場や観光客対応の駐車場の整備は、「中心市街地拠点」の整備の観光戦略など関連計画や事業と連携して取り組みます。

### 3. 公園・緑地

公園・緑地については公園と緑地に分類して方針を設定します。

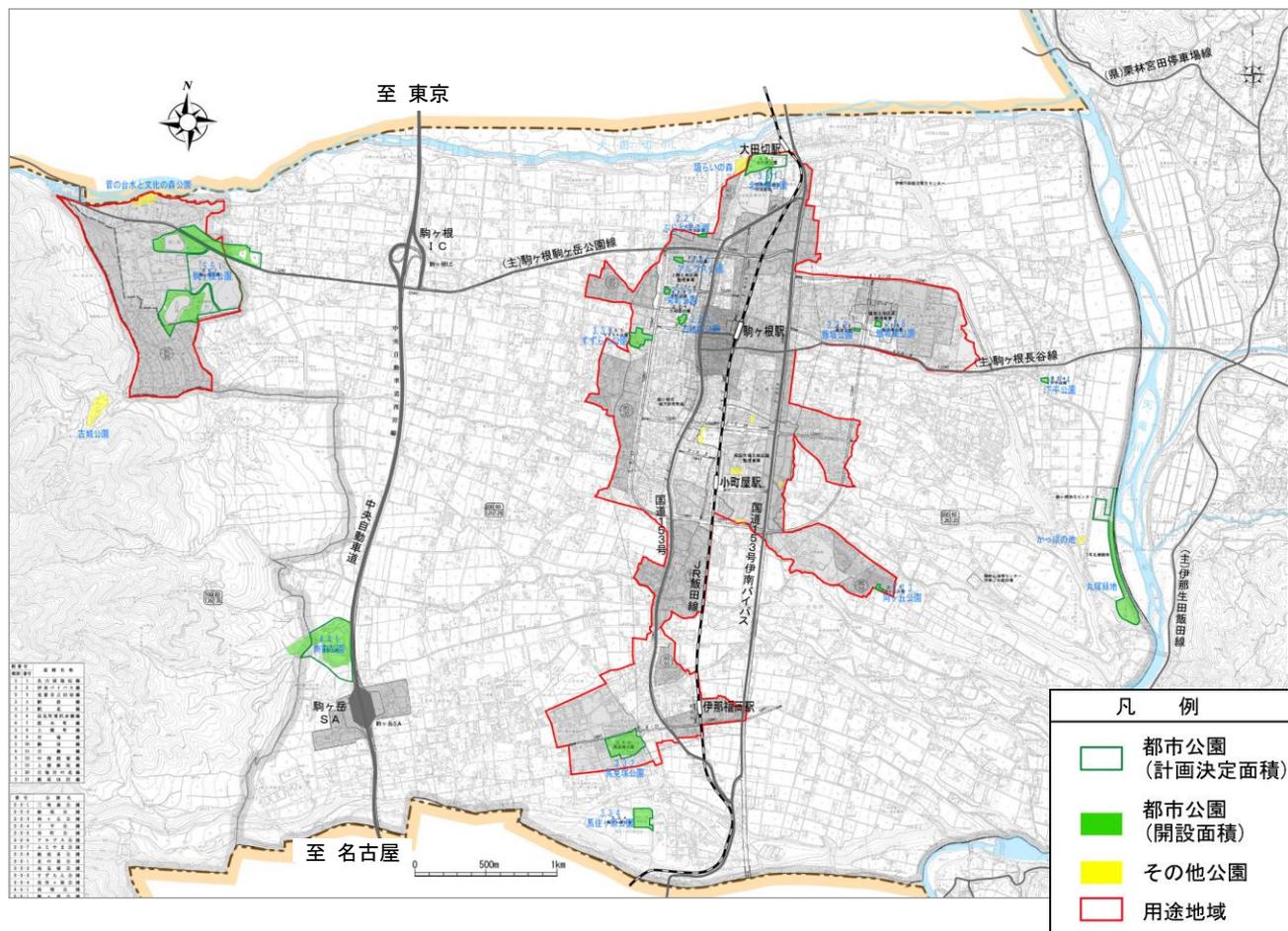


### 3-1. 公園の方針

公園は、生活に潤いと安らぎを提供するとともに、都市の良好な景観を形成する要素、健康増進の場、防災上の延焼遮断・避難場所など多くの機能を有しています。

本市で計画した公園は都市公園を含めて全て開設済みです。

今後は、官民協働による管理を進めるとともに、「公園の長寿命化計画」に基づき施設の維持を図ります。



＜公園の整備方針図＞

### 3-2. 緑地の方針

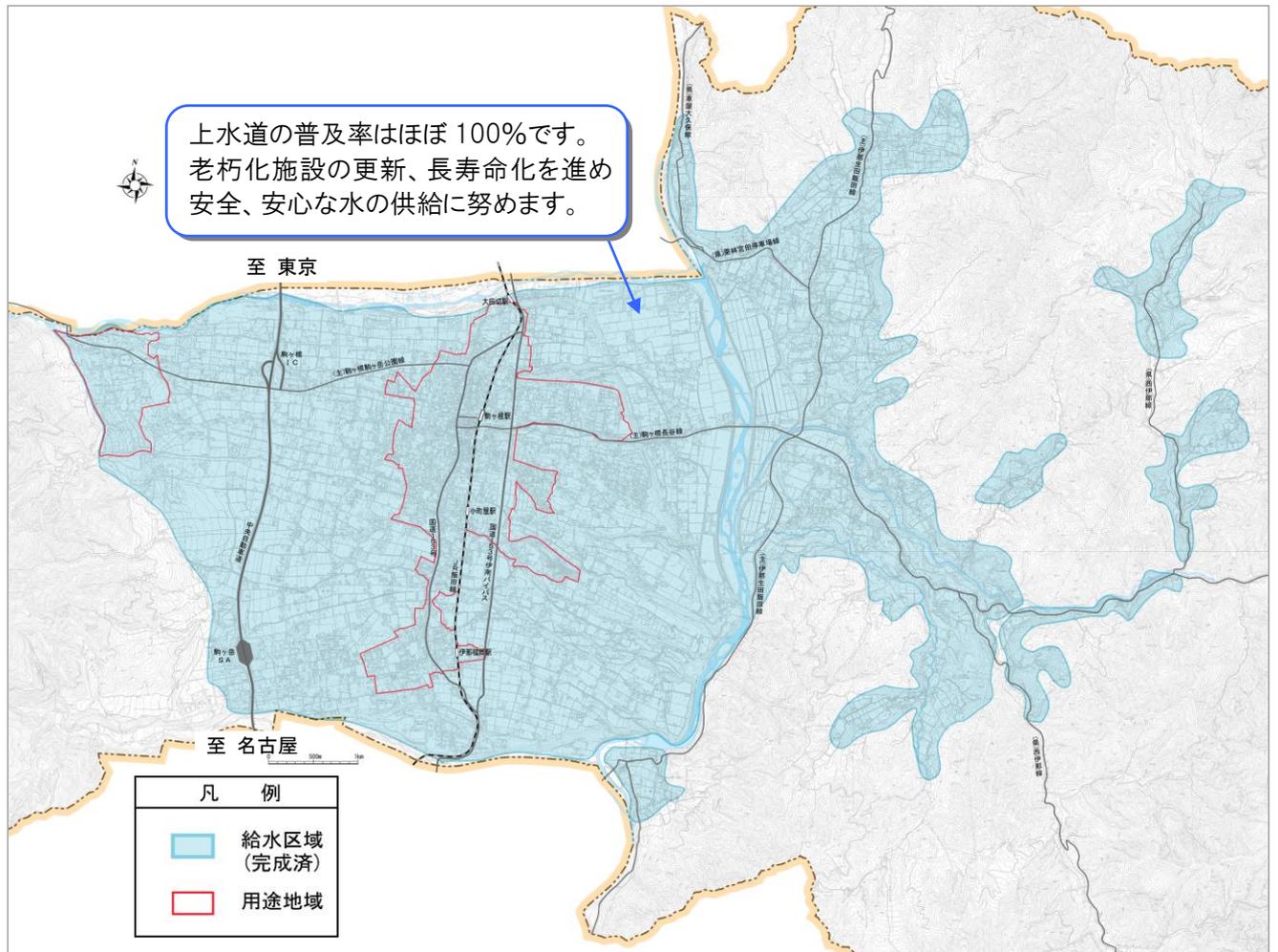
「河岸段丘林」や「都市内緑地」については、市民に憩いとうるおいを与える緑地として、有効活用するとともに維持保全に努めます。

## 4. 上水・下水道

### 4-1. 上水道の方針

上水道については、「駒ヶ根市水道ビジョン」に基づき、安全、安心、安定した水の供給に努めます。

また基幹管路の耐震化、道路等の関連事業にあわせ老朽化施設の更新を計画的に進めます。



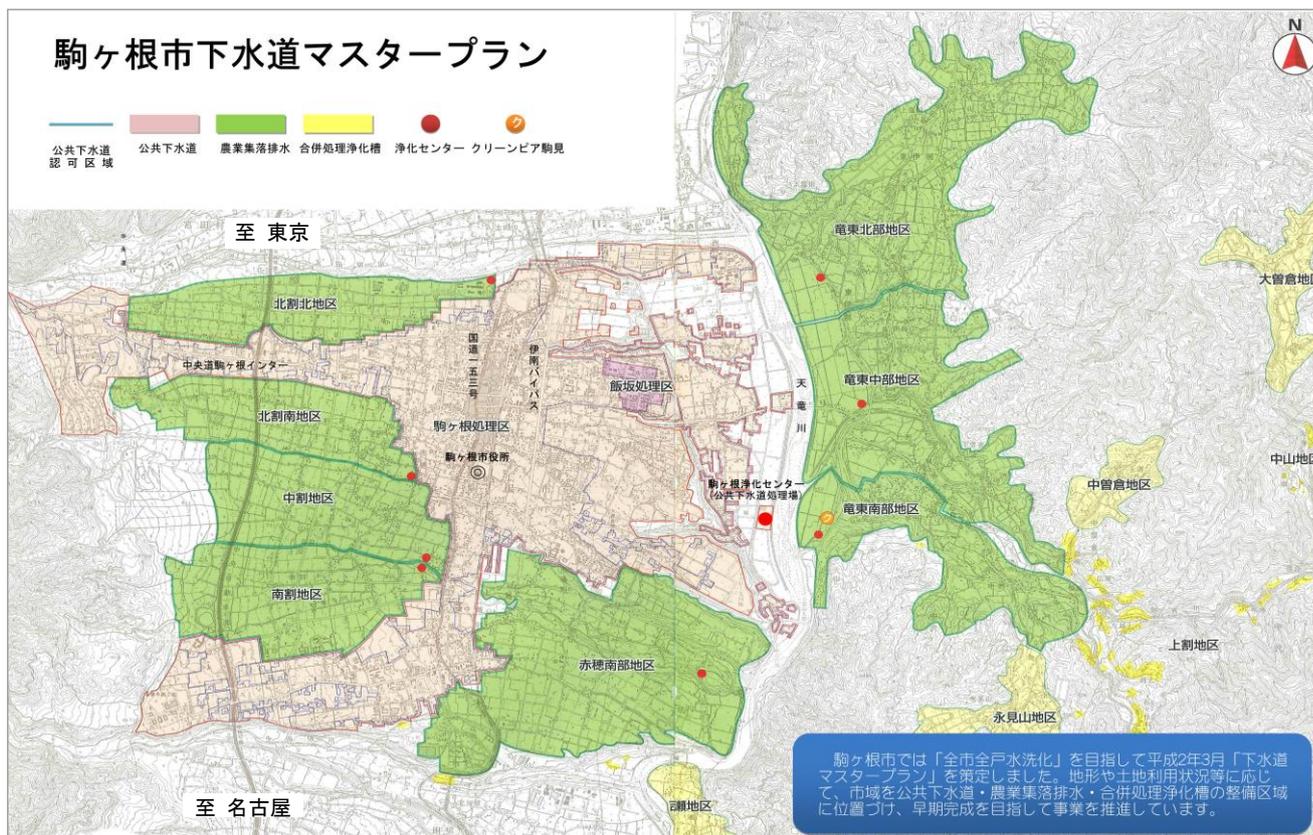
<上水道区域>

## 4-2. 下水道の方針

下水道については、「水循環・資源循環のみち2010構想」に基づき、整備促進と既存施設の適正な維持・管理を進めます。

さらに駒ヶ根浄化センターは、長寿命化計画による施設更新を図ります。

農業集落排水では、各地区管理組合と密接な連携のもと、適正な維持管理と施設の効率的な運営に努めます。



### <下水道区域>

## 5. 都市防災

都市防災については、地球温暖化、気候変動に伴う自然災害、東日本大震災等を教訓に、「駒ヶ根市地域防災計画」に沿って、災害時に的確に対応できるよう防災・減災対策を進めます。

さらに都市施設の計画的整備や老朽化施設の更新、避難場所となる公園や広場の適正な維持管理、避難経路や延焼遮断路となる道路の維持・改善に努め、市民の生命と財産を守り、安全安心な市民生活を確保した災害に強い都市づくりを進めます。

## 6. 都市景観

「ふたつのアルプスと天竜川」に象徴される美しい自然や景観は、本市にとって重要な財産です。この美しい自然を守り育み、新たなまちなみ景観を創出するため、景観法に基づく景観行政団体に移行しました。今後は、駒ヶ根市景観条例及び駒ヶ根市景観計画に即して「アルプスがふたつ映えるまち」の景観形成に努めます。

あわせて屋外広告物のあり方についても研究し、自然とまちなみの調和のとれた景観づくりを目指します。

### 【山岳地域】

宝剣岳をはじめとする中央アルプスの山々は、駒ヶ根のランドマークであり、千畳敷カールは、特徴的な地形や高山植物が良好な景観を形成しています。駒ヶ根を代表する中央アルプスの眺望景観を形成する地域であるため森林の維持・保全、向上を図ります。

### 【山麓高原地域】

山麓の林間には、周辺の自然や樹木等との調和を図った施設や事業所等が点在し、自然が織りなす四季折々の風景の変化とともに良好な景観をかもししています。山岳地域とともに駒ヶ根を代表する中央アルプスの眺望景観を形成する地域であるため森林の維持・保全、向上を図ります。

### 【観光・田園地域】

千畳敷を間近に見られる視点場であるとともに、大川川や湖沼、林におおわれた寺や史跡が周辺の自然に調和し、特有の景観をつくりだしています。地域住民が案内したくなる、観光客へのおもてなしにふさわしい景観を目指すとともに、地域資源を活かした駒ヶ根らしい田園景観を目指します。

### 【周辺田園・河岸段丘地域】

天竜川に向かって、ゆるやかな傾斜のある田園風景をかもし、大きな広がりを持つ景観をつくりだしています。アクセントとなる草花植栽による法面修景や石積み等の地域資源を活かした田園景観の創出を図り、駒ヶ根らしい、ふたつのアルプスが映える地域を目指します。

### 【市街地地域】

南北に比較的平らで東に向かってゆるやかな傾斜があり、東西に山々を望むことができる市街地です。地域住民の生活基盤として快適で潤いのある景観の創出を図ります。アルプスの眺望に配慮するとともに駅前を中心とする市街地は、市民、観光客も歩きたくなるような雰囲気づくりに努めます。

### 【中山間地域】

平地が少なく洞や沢等が多い、変化に富んだ山間地で傾斜地と背景の山を活かした生活空間が特徴的な景観をつくりだしています。天竜川沿いや、中山間地域に広がる田園風景及び森林の維持保全と地域の特性をいかした集落景観の整備を行い、変化に富んだ特徴のある中山間地の景観を創出します。

